

団体受験の ご案内



[日本健康マスター検定]の【5つの特徴】

自分の健康を管理する能力を身につける「ベーシック・コース」(セルフケア)と、その上級版で、更に職域・地域の健康マネジメント能力を身につける「エキスパート・コース」(コミュニティケア)の二段階構成。検定合格者は【健康マスターベーシック/エキスパート】として認証。

各界の専門家の監修により、最新、体系的な健康情報をもとに、単なる知識にとどまらず、正しい医学・健康情報にアクセスする方法や、巷に広がる健康情報を取捨選択したり、その真偽を判断するスキルをも学べる。

日本の医療・健康政策をリードする日本医師会の後援、総合監修。その他関係機関の後援も受けている。



検定合格者を、
【健康マスター】
として認証

02

体系的かつ
最新の健康知識/
リテラシー習得を
目的とする、
健康学習プログラム

01

健検

日本健康マスター検定

日本医師会の
全面協力、
関係機関の支援

03

生活やビジネスに活かせる
実践的知識・
ノウハウ中心のメニュー

05

04

NHKグループの
健康情報、
コンテンツの活用

テキストや問題は堅苦しい医療や疾病のお勉強ではなく、受験者目線での知りたい/生活・仕事の役に立つ/人に話したくなる知識・ノウハウを中心に構成。

「きょうの健康」「チョイス」ほかNHK健康関連番組で紹介されている、最新の事例・研究に基づいた健康コンテンツ盛りだくさんの公式テキストで学ぶ。

NEP NHKエデュケーショナル NHK出版

健検

日本健康マスター検定

【団体受験のタイプ別概要】

「団体受験」とは？

50名以上の受験者を団体受験責任者が一括で申し込み、本会場、準会場または自前（自社会議室など）で準備できる会場で受験を実施するカテゴリーであり、受験料、テキスト代の割引が受けられます。



- 料金の団体一括払い、個人申込みも可能です。
- 自社会場と、公開会場を併用するパターンもあります。

「団体受験」の種類

団体受験には以下の2種類があります。

1

自社会場を利用するタイプ(団体受験A)

会場手配・試験運営を各団体で実施、試験日程の調整も可能です。

- 受験できる会場：自社会場、公開会場（本会場、準会場）
- 割引率：受験料15%〈ベーシック：4,250円／エキスパート：6,800円（税込）〉
テキスト代15%〈2,295円（税込）〉

2

自社会場を利用しないタイプ(団体受験B)

- 受験できる会場：公開会場（本会場、準会場）
- 割引率：受験料5%〈ベーシック：4,750円／エキスパート：7,600円（税込）〉
テキスト代15%〈2,295円（税込）〉

第4回試験概要

試験実施日程 2018年3月18日(日)

個人申込期間 2018年1月5日(金) 10:00~2月5日(月) 24:00

団体受験申込 2017年12月~2018年1月(詳細は後日決定します)

試験会場

東京、大阪、名古屋、札幌、仙台、米沢、福島、高崎、宇都宮、大和(神奈川県)、藤沢、沼津、静岡、浜松、大津、京都、和歌山、姫路、岡山、広島、松江、高松、高知、福岡、北九州、佐賀、熊本、宮崎、鹿児島、那覇
の30都市公開会場、団体受験企業自社施設

受験料

ベーシック5,000円、エキスパート8,000円(税込)

過去3回の試験実施状況

試験スケジュール・会場

- 第一回試験 2017年2月26日 全国11か所
- 第二回試験 6月11日 全国20か所
- 第三回試験 10月1日 全国27か所



第一回試験会場風景

テキスト販売状況

- これまでに約17,000部 販売(17年8月末時点)



試験申込

- 第一回 4,105名(ベーシック 1,554名/エキスパート 2,551名)
- 第二回 4,011名(ベーシック 743名/エキスパート 3,268名)
- 第三回 5,528名(ベーシック 1,341名/エキスパート 4,187名)

- 団体受験企業 ①10団体 ②15団体 ③18団体(*順不同)

アンファー、エムティーアイ、トヨタ自動車、OSGコーポレーション、東京海上日動、メディopalホールディングス、住友生命、ローソン、ロート製薬、日本放送協会、サンケイリビング新聞社、ファンケル、ベネフィット・ワン・グループ、フレスタ、ほか

【受験者にとってのメリット】

～合格するとどうなる?～

01

健康生活や業務に必要な一定レベルの健康知識・
リテラシーの習得(健康学習)



地域・職域での
リーダーとしての活躍

02

健康マスター(ベーシック/エキスパート)の
タイトル取得



キャリア形成

03

健康関連業務、ビジネスの強力な武器としての活用



顧客レピュテーションの向上、
顧客とのリレーション拡充

【団体受験企業様のメリット】

01

社員の健康教育ツールとして活用

健検の受験勉強を通じて、半数以上の人
 「身体活動・運動量を増やす」「食生活の減塩」に変化があったと回答。
 日常生活の変化を実感。

【受験勉強を通じての変化】※第3回試験(2017年10月1日)受験者調査より

	N数	食生活での減塩	野菜・果物摂取	身体活動・運動量を増やす	睡眠・ストレスへの対応	喫煙習慣見直し・禁煙	
全体	2061	50.5	46.2	55.0	29.0	8.8	
職業別	会社員	1808	51.0	46.3	54.5	28.5	9.1
	公務員	14	50.0	57.1	50.0	14.3	0.0
	団体職員	45	40.0	46.7	50.6	17.8	4.4
	自営業・経営者	43	51.2	39.5	60.5	41.9	4.7
	パート・アルバイト	70	48.6	44.3	65.7	38.6	10.0
	学生	15	53.3	33.3	33.3	46.7	6.7
	無職	36	44.4	44.4	58.3	30.6	5.6
	その他	29	44.8	55.2	58.6	31.0	10.3
年代別	10代	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	20代	276	46.0	39.1	47.5	28.3	6.2
	30代	428	50.0	47.0	52.6	28.5	9.8
	40代	717	49.2	47.6	56.3	27.1	8.8
	50代	521	53.9	47.6	58.3	33.8	9.8
	60代	91	57.1	47.3	62.6	27.5	9.9
	70代	16	43.8	31.3	50.0	6.3	0.0
	80代以上	4	75.0	75.0	50.0	25.0	0.0

02

経済産業省「健康経営優良法人(ホワイト500)」の 評価に役立つ

「ヘルスリテラシーの向上～管理職又は従業員に対する教育機会の設定」
 の中の適合例として健康知識等の向上に関する研修や
 検定等の受講が新たに加わったため、
 「日本健康マスター検定」を評価材料として申請することが可能。

【想定される受験者層】

職域



- 人事、健保部門関係者
- 健康関連事業所属社員
- 健康経営推進企業の従業員
 - 顧客サービス従事者
- 管理職、職場の衛生・健康委員
 - 既存の専門職
(栄養士、薬剤師、運動指導士ほか)



地域

- 自治体の健康管理・福祉関係者
 - 市町村・健康推進委員
 - 健康に関心の高い住民
 - シニア層



学域

- 健康、福祉、栄養、運動系教職員、専攻大学生、専門学校生、高校生
 - 就活生

